

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 74	福山市立神辺小学校
最終更新日	2022年(令和4年)4月15日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 1.児童が学び方の経験を活かしたカリキュラム編成や学級単位にとられない授業形態等を工夫する。 2.PDCA サイクルをもとに、児童生徒の学びや活動を充実させ、改善を図る取組を継続していく。	児童生徒の現状 ・学びの伸びを把握する調査では、現状学年のレベルに達していない児童がいた。 ・小中ともに児童生徒が自ら動き、生活をよりよくしようとしている。 ・「体力づくりに取り組んでいる」肯定的解答85%。新体力テストは2021年度、接触をさせて実施。県平均を越えた割合11%。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	スキル：知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力 倫理観：思いやり 知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子 ・「子ども主体の学び」全教室展開の実現を目指した授業改善の継続 ・児童生徒による生徒指導(生活のきまり)の見直しの継続 ・神辺西中学校区における「21世紀スキル&倫理観」の評価規準による個に応じた支援の継続
--	---	---	--

III 自校

ミッション 伝統を現在に生かし、未来を生き抜く人を育てる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
学校教育目標 ひとりひとりの命を生かし 育てる教育の実現	めざす子ども像	既習事項と新たな知識・技能を関連付け、思考・判断・表現の場で活用できる知識・技能として定着している。	課題解決のために必要な情報を収集し、比較・分類したり関連付けたりして、筋道立てて考え、表現している。	既有的知識と関連付け、自ら課題を見つけ選択するとともに、学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かそうとしている。
現状 ＜児童生徒＞ ・自分や友だちのためになることを考えて実行できている」と自己評価する児童は全体の93%であり、増加している。自分の周囲に対してだけでなく、学校や地域に貢献しようとする気持ちが育っている。更なる実践力育成のため、PDCA サイクルに基づき、活動の改善を図る機会を増やす必要がある。 ＜授業＞ ・児童が自己の学力を伸ばしていけるように、教員が、児童一人一人の伸びを見取る評価力を高めていく必要がある。 ・児童の学びに向かう姿には、個人差があり、児童の発言に対して柔軟に対応し、学びを繋げていく教師のファシリテーター力を高めていく必要がある。	テーマ	自ら学び続ける子どもの姿を目指した仕組み		
	研究 内容等	1 児童が自ら学びをデザインする ・児童が自分の関心や習得の段階に応じて課題や学習方法を考え、選択する。 ・児童自身が学びのプロセスに目を向け、学び方を修正したり、自己の伸びを実感したりできる振り返り ・「学びファイル」を活用した自己の伸びの蓄積 2 子どもたちの多様な学びを尊重した授業 ・教科・学年を越えた学びのカリキュラム ・総合的な学習の時間の単元開発(縦割りでの学び、教科・興味発、個人テーマ) ・児童の学びの過程に即した評価方法の見直し及び教員の評価力向上		
	めざす授業の姿	・児童が主体的に取り組み、学び楽しさを味わうことのできる授業 ・身に付けた既習事項を活用して、新たな課題を解決することのできる授業 ・友だちと共に学ぶよさを実感できる授業		

1			新規		<ul style="list-style-type: none"> ・「人のために動く活動」「人の役に立つ活動」など委員会、当番活動、係活動などやる気をもたせる学級経営の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一役当番や自ら考え、選択して人のために動いた児童など自己肯定感を85%以上にする。 								
3	自己の学びをデザインできる児童の育成	★	継続	積極的に運動に親しもうとする。 目的に合わせて目標を設定し、体力向上ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で運動に親しむ時間を設定するなど、運動について児童同士が交流する機会を設ける。 ・体育委員会や教員が運動例を示すなど、児童が自分で運動を選べる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活動できる体育的イベントを学期に1回以上実施する。 ・「運動に取り組んでいる」児童の割合を85%以上にする。 								
3	児童の教育環境をデザインする取り組みを推進する。		継続	小中一貫教育の推進を図り、その取組を検証し、情報発信する。 教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会を年間2回以上、各部の主任・主事による連携を3回以上行う。 ・保幼小合同研修会を年間2回以上実施する。 ・超過勤務45時間以内を目指し、教職員の主体性を尊重した自己管理を行う。 ・行事及び準備時間の精選や教科横断的な単元づくりを通して、子どもたちのために学びづくりに向けた場や時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会で話し合った内容を精選し、特に生活のきまりを工夫改善する。 ・特別支援教育の視点に「授業参観や協議を行い、日々の実践に生かす。 ・学年単位で、45時間以内を意識し、各主任が定期的に声をかけることを100%にする。 ・職員アンケートにおいて、「子どもたちのために使える時間を確保できている。」と肯定的評価する職員を90%以上にする。 								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。